

韓国 国立中央図書館

ソウルの中心部から、南山の向って右手の肩のあたりを望むと、空飛ぶ円盤の親玉のような白い建物が、異彩をはなっているのがみえる。これが韓国国立中央図書館である。

この図書館は、法律によって定められた納本図書館として、全国書誌作成館として、韓国の書誌情報の集約点であり、また全国の図書館間の協力促進、ライブラリアンの教育等によって、韓国図書館界の中心的役割を果たしている、韓国の代表的な図書館の一つである。

1980年度の同館の『図書館彙叢』によると、1979年度に受理した資料がおよそ三万

五千冊強、蔵書七十三万冊、日本の図書館の規模でいうと、都立中央図書館に匹敵するといえようか。

この図書館の所蔵資料の特徴としては、館の職責に由来する韓国出版資料の包括的収集の外に、十八万冊に達する朝鮮・中国の古典籍の集積がある。特に韓本においては、質量ともに屈指のものであるといつてさしつかえないであろう。

利用統計によると、分館を含めて年間五十万人以上の利用者があり、その要求もかなり活発なようだ。事実、受付等はかなりごったがえしており、閲覧席も大方がうまっている。ただし、わが国立国会図書館程に騒々しい雰囲気ではない。思うに、利用の中心が図書にあり、雑誌・コピーの利用者が非常に少ないことにもよるのであろうか。

専門閲覧室をのぞくと、系譜専門の資料室があって相当に繁盛していたり、オリンピック資料室が新設されるなど、こんなところに韓国のお国柄をうかがうことができる。

現在の建物は、元来図書館用に作られたものではなく、そのため色々利用に不便を感じるので、別の場所に移転する計画が具体化しているという。すでに四万平方メートルの敷地を確保しており、1985年には新しい建物に移転するとのことである。そうになると、韓国国立中央図書館も一層の発展を期待することができるであろう。

(人文課 土屋紀義)

